

# Historian's View

NO. 31

ああ 勘違い

= 間違いやすいワイズ用語 =

クラブの正式名称 ゲストとビジター

トロイカ方式 国際大会と世界大会

コメットとワイズリング ワイズメネット

グッドスタンディングと国際投票権

JEF と JF と EF 定款と憲法

TOF・ASF の読み方など

2011年3月27日 東日本区1998~2011 ヒストリアン 吉田 明弘

日常、ワイズメンの間で、よく使われる言葉で本来と違った意味で使われたり、海外では通用しない言葉があります。それを取り上げて欲しいとの要望がありました。

文献委員会の仕事ではないかと思いましたが、文献委員会は、昨年、HANDBOOK & MEMBERSHIP ROSTER (2010-2011) の「ワイズ用語」を簡潔に書きなおしたばかりでもありますので、多少、歴史的なことを加えて、まとめてご紹介します。順不同、思いつき順です。

## クラブの正式名称

クラブの正式名称は、国際協会加盟時に国際協会に登録したときの名称です。これは、何故ではなく、決まりです。略称も正式には通用しません。たとえば、ひがしクラブ、北クラブ、銀座クラブ、江東クラブではダメで、冠に「東京」が必要です。

国際協会への登録はローマ字ですから、この綴りを間違えると国際投票で無効となります。これは部名も同様です。どちらの表記がより発音に近いかの問題ではありません。

例えば、部名は、

北海道部は HOKKAIDO(NORTH)、北東部は HOKUTOBU(NORTHEAST)、関東東部は KANTOTOBU、東新部は TOSHIN、あずさ部は AZUSA、湘南・沖縄部は SHONAN-OKINAWA 富士山部は、FUJISAN です。

クラブ名では、仙台クラブは Sendai City、仙

台青葉城クラブは Sendai-Aobajyo、東京八王子クラブは Tokyo-Hachiouji、東京たんぽぽクラブは Tokyo-Tampopo、御殿場クラブは Gotemba です。これらは一例ですから、認証状でもう一度、確認するか、区事務所に問い合わせてください。区のロースターは、2011 - 2012 年度版から改めます。

## ゲストとビジター

ブリテンなどで、ゲストとビジターが混同されている場合があります。個々のクラブにおけるゲストとは、いずれのワイズメンズクラブにも所属していない方を指します。ビジターは、他のワイズメンズクラブのメンバーです。これに他クラブのメネット、コメットを加えるのが一般的です。合同例会などの場合の、ゲストは、どうするかの問題があります。自クラブのこれまでの統計的な処理基準に合わせて判断することになるでしょう。

## トロイカ方式

日本のワイズでは、組織の各レベルで、現、直前、次期の役員が協力して活動を推進することをトロイカ方式と言っていますが、本来的には三頭立ての馬車という意味のロシア語です。これは、ひとりに権力が集中して独裁をまねかないために権力を分散させる体制です。ワイズの場合は、あくまでも、その年度については、「現」が責任

と権限を持ち、組織を導き、「直前」「次期」が協力して、組織の健全な維持・継続を図っていく体制です。

日本区時代には、東・西から交代で区理事が出ていましたが、あまり三者が協力する態勢ではありませんでした。次期理事は、現理事のやり方にはほとんど意見することなく、自分の任期中には改善しようとしていました。ところが、その意図が次々期理事には理解されず、むしろ基本に忠実でないと批判的に見られ、翌年には、元に戻されてしまうことになりました。ですから、東・西が互いにこれを繰り返す、何年経っても一向に進歩しないという面がありました。

その反省から、東日本区になってからは、三者も集う常任役員会を毎月開催して、意志の疎通を図っています。

## 国際大会と世界大会

ワイズメンズクラブの国際大会を世界大会と言う人、書く人がいますが、ワイズの場合は、International Convention、(国際大会)、YMCAの場合は世界YMCA大会(World Council of YMCAs)です。ワイズの世界では、クラブといえば、自分のクラブ、区理事といえば自区理事、国際大会といえば、ワイズメンズクラブ国際協会の大会を指します。国際大会や世界大会は、普通名詞ですが、固有名詞として使われることが多いのです。だから世界大会ではいけません。

## コメットとワイズリング

コメットがワイズメンの子女を指すことはご承知のとおりです。しかし、これは、日本の造語です。コメットをCometと書けば英語では彗星の意味ですから、日本以外では通じません。「Co」は“子”の意味です。国際ではやはり造語ですが、Y'slingsといわれています。奈良傳さんは、「コメットは大阪土佐堀クラブのだれかが作った。Y'slingsのlingは接続詞で「小さい」の意あり、Duckling(あひるの子) Princeling(小公子)

と同じ」と書いています(『Y's Hoots 日本語版』1968年1月)。

## ワイズメネット

ワイズメンの夫人を指します。これはアメリカで作られた言葉です。奈良傳さんは、前記『Y's Hoots』に「英語でシガー(葉巻)に対して、紙巻をシガレットというように、“ette”は、接尾詞で「少し小さい」という意味があるのです。“ette”には接尾詞で「女性」という意味もあります」と記しています。

1980年代以降、国際の一部の国から「小さいとか、可愛い」ということがけしからんという声が強くなっています。米国では、讚美歌でも、神を指す男性代名詞が歌詞にある場合は、中性の代名詞に読み換えて歌わないと睨まれるという状況があります。

女性メンバーの連れ合いを何と呼ぶかという問題もあり、パートナーというケースも増えてきました。横浜国際大会の台本では、配偶者という意味のspouseを用いました。

## グッドスタンディングクラブと国際投票権

国際憲法では、クラブが「活動中(in good Standing)とは、今半期およびその直前2半期において、報告済みの会員数の94%以上の区費、地域会費、国際会費を納付した状態を指します(新クラブにあっては、請求された会費について)。したがってグッドスタンディングクラブとは、上記の条件を満たしたクラブで、正しくはクラブメンバー数の多寡とは関係ありません。

一方、国際協会の意思決定に参加できる。国際投票権は、上記条件を満たし、なお15名以上の会員が在籍しているクラブに与えられます。

しかし、5名以上、15名未満のクラブであっても、区理事が、当概クラブが積極的にその状況を改善すべく努力をしていると認められた場合は、国際執行役員の承認を得て、特別に国際投票権が与えられます。これは、選挙のたびに承認を得ること

を要します。

というわけで、現在の日本の場合は、会費未納のクラブがありませんから、全クラブがグッドスタンディングクラブと言えます。ただし、グッドスタンディングクラブがすべて、国際投票権があるわけではないのです。

## JEF と JF と EF

JEF は、東日本区ワイズ基金 ( Japan East Y's Men's Fund )、JF は、日本 ( 区 ) ワイズメン基金 ( Japan Y's Fund )、EF は、( 国際 ) 信託資金 ( Endowment Fund ) です。もともとは、1975 年の熱海国際大会において、日本区メンバーの拠出金や、準備委員会の努力によって出た剰余金が日本区に与えられて「アタミ基金」としましたが、さらに発展させるため、国際協会の EF に倣って、1982 年に日本ワイズ基金 ( JF ) とし、1997 年の東・西日本区分割によって、東日本区ワイズ基金 ( JEF ) と西日本区ワイズ基金 ( JWF ) となったのです。

## TOF・ASF などの読み方

TOF を「トフ」、ASF を ( アスフ ) という人もありますが、これは海外では通じません。「ティーオーエフ」、「エイエスエフ」です。同じようなことが他にもあるかもしれません。

## 標語と主題

ワイズの標語 ( motto ) は、「To acknowledge the duty that accompanies every right ( 強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う )」だけです。組織の各レベルのリーダーが掲げるものは、主題 ( theme ) です。日本区時代から「motto」も「theme」も「標語」と訳していましたが、1999-2000 年度、「標語は不変である国際標語であるのだから、個人のもので毎年変わる theme は主題としよう」との提案が実行に移されました。

これは、ほとんど 1 年間で東日本区中に浸透しました。

## 本例会

東日本区では、毎月、例会と役員会 ( 事務会 ) を行っているクラブがほとんどですが、役員会を例会とするクラブもあります。しかしこの呼び方がクラブによって異なっていました。毎月の最初に行うものを第一例会、後の方を第二例会とするクラブ、卓話者を招く会を第一例会、役員会 ( 事務会 ) を第二例会とするクラブがありました。ロースターなどでも分かり難いので、2005 年 11 月の区役員会で、卓話があり、ゲスト、ビジターも招く例会を「本例会」とし、メンバー中心でクラブ運営などを話し合う例会は、第二例会とすることが承認されました。月に 2 回例会を行う場合は、第一本例会、第二本例会となります。

## 担当主事と連絡主事

現在の東日本区では、各個クラブと、その奉仕対象である都市 YMCA ( ブランチやセンターなどの場合も ) との連絡役を果たす YMCA 主事を担当主事、東日本区と日本 YMCA 同盟レベルでの連携をはかる同盟主事を「連絡主事」としてしています。西日本区は、いずれも「連絡主事」です。日本区時代は、いずれも「担当主事」でしたが、東・西日本区に分割した際に、東日本区は呼称を別にしました。

## 定款と憲法

これも普通名詞ですが、定款と言えば、区レベルの定款を、憲法と言えば、国際憲法を指します。

アジア区では、「オペレーションガイドライン」としてしています。

## 上納金

ワイズ用語ではありませんが、国際会費、アジア地域会費、区費、部費などのことを指してブリテンなどで使われることがあります。組織の上部 ( どちらが上かは分かりませんが ) に納付する金と言う意味では間違いではありませんが、上納金には問答無用で、お上に召し上げられる年貢のイ

メージがあります。それぞれの負担金は、一方的な「お達し」で課せられるものではなく、組織の主体であるクラブの直接、間接の意思表示によって決まるものです。むしろ連帯のための費用です。言葉として間違いではありませんが、ワイズメンの組織を誤って理解することにもなりますので、用いたくない用語です。

## あとがき

昨秋、ワイズのさる高官(?)たちと、さる店で、ささなどをたしなみしました。酔うほどに、「あれはおかしい」、「これも変だ」という話になりました。といっても、悪口を言ったり、愚痴をこぼしていたわけではありません。

ワイズの中で、おかしな表現や、違った言葉の使い方がされているということでした。

せっかく、すっきりしたロースターの「ワイズ用語」に加筆するのもおかしいので、『ヒストリアンズ・ビュー』で取り上げたらということになったのです。

その時に、ワイズソングの『ONCE MORE WE STAND』も、出来たばかりのクラブの歌が、なぜ、「もう一度立ち上がろう」なのか、「これもおかしい」と指摘されました。24号で取り上げました。

言葉は生き物ですから、「自画自賛」や「舌鼓」(今はNHKアクセント辞典でも「シタツツミ」の読みが認められています)ではありませんが、本来とは違う使い方や読み方をしても、それを使う人が増えてくると市民権を得ることになります。

若い人を応援しよう(本当は自分の懐具合の支援のため)、若い人がやっている酒場に行くことが多いのですが、いろいろ面白い言葉に出会います。

先日は、「冷奴っ子」というのがありました。普通は「冷奴」だと思いますが、これは、定着するだろうと思っています。

別れと出会いの時季です。わが家の前に私の卒

業した小学校の正門があります。今年も卒業式が行われたはずですが、静かでした。私が小学校を卒業した年の5月、朝鮮戦争が起きました。この戦争が、どうしても自分の卒業と結びついてしまいます。今年卒業した子どもたちの記憶には、やはり、大地震・大津波・原発事故が刷りこまれるのでしょうか。

小学校卒業を間近にして、友だちの母である歌人・五島美代子さんにサインをお願いしました。当時は皇室でご進講し、歌会始の選者でした。

数日後の寒い朝早く、わが家の裏木戸に、油紙に包まれたサイン帳と鉢植えの白の桜草が置かれていました。サイン帳には、流れるような大きな字で、

少年の日の希望という花ことば

白い桜草の鉢に添えておくらむ

と、ありました。中学生だった姉が、桜草には、希望という花言葉があるのだと教えてくれました。喜びとともに、ピンクだったらもっと嬉しいのに、と思いました。

40年ほど経って、書店で何気なくとった本に白い桜草には、「少年の希望」という意味があるとあったのには驚きました。何とも贈り甲斐のない野暮天に贈られたものだ、と苦笑いしました。

この歌を、これまでは、自分のものと思って、自慢していましたが、今、多くの子どもたちに贈りたいと思います。希望をもって、巣立ち、人生のどこかで、出来るだけ早く、YMCA、ワイズメンズクラブに出会ってもらいたいと思います。